

消 防 学 校 だ よ り

令和7年 1 月号

発行年月日 令和 7 年 1 月 31 日
発 行 宮 崎 県 消 防 学 校

中級幹部科 入校

1 月 16 日（木）から 1 月 24 日（金）で第 36 期中級幹部科研修を実施しました。

研修には、県内消防局・消防本部から 24 名の学生が入校し、中級幹部職員としての心構え、消防財政や指揮など総合教育訓練を実施しました。

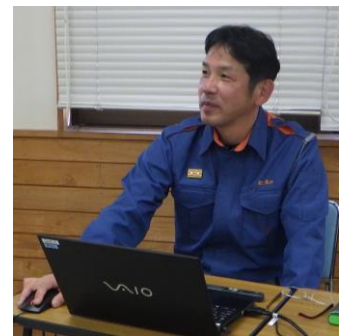


中級幹部科 （安全管理）

1 月 16 日（木）、宮崎市南消防署 釘元 伸弥司令から「安全管理」について講義を受けました。

消防職員が安全に消防活動を行うためには、個々の職員や隊はもちろんリーダー自ら事故等の発生を阻止するという安全管理に対する組織管理が必要であり、職員の安全を最優先に考えた組織体質を作っていくことが必要である。

消防における組織の安全管理体制の重要性に対する認識は組織を挙げて取り組んでいく必要があり、事故事例に関する情報についても、共通認識を持ち事故防止を図っていくことが必要である事など、自らの経験を交え講義をしていただきました。



中級幹部科 人材育成

1 月 17 日（金）、人財科学研究所の工藤 智徳代表から「人材育成のポイントは、助言・対話 ～部下が自ら考え自律していくためには～」について講義していただきました。

職場で安心して自分の意見や考え方などいつも話せる状態（心理的安全性）を高めていく必要性など、部下をどう育てていくか講義していただきました。



中級幹部科 （ドローン研修）

1 月 20 日（月）、ライフクリエイト宮崎株式会社 新原 一容氏から「ドローン」について講義と操縦指導を受けました。昨今の災害現場にて多くの成果をあげている資器材ですが、地上から離れ飛行するという事は、落ちることもあります。法令及び資器材の諸元をしっかりと理解して使用しましょう。



中級幹部科（指揮訓練）

消防学校では、災害活動中並びに訓練中に於ける受傷事故を無くすため、安全管理能力の向上に関する訓練を多く取り入れており、指揮訓練は学んだ知識の実践との位置付けで実施しています。

消防目的を十分に果たしつつ、安全管理にも留意した活動指揮を執れるように訓練しました。



中級幹部科（惨事ストレス対策）

1月21日(火)、消防庁緊急時メンタルサポートチームの臨床心理士 首藤 啓介氏に、惨事ストレスとデフュージングについて講義していただきました。

講義では、惨事ストレスについて復習し、誰もがメンタル系疾患に罹患する可能性があることを理解し、1対1での傾聴の演習、ピアサポート（仲間同士でのサポート）を想定したロールプレイング。1対複数の傾聴の演習、デフュージング（1次ミーティング）を想定した演習を行いました。

リーダーとして自分自身をケアし、対処のお手本を示すのも重要な役割となります。



中級幹部科

1月22日(水)、タフジャパン 鎌田 修広氏に来ていただき、消防職員の体力維持管理、キャリアパス（キャリアデザイン）、モチベーション維持について講義していただきました。消防業界も定年延長が始まり、現役生活が伸びる中、定年延長対象者の全てがデスクワークとはなりません。加齢困難職種（加齢に伴う身体機能の低下や健康状態の不安が職務遂行に支障を来す職務）での生存術を今から身につけ、消防力の低下の一因とならないように頑張りましょう。



第36期中級幹部科は1月24日（金）全てのカリキュラムを終え修了しました。

警防・特殊災害科

1月28日（火）、警防・特殊災害科へ県内消防局・消防本部から15名が入校しました。これから2月14日（金）までの13日間、火災の特性や消火戦術、特殊災害対応について深く学びます。



警防特殊災害科（安全管理）

1月28日（火）、安全管理と実技指導を行いました。研修中、実技訓練を行うため、安全管理に対する共通認識と、訓練時における安全資器材の配置と安全管理員の配置などを確認しました。



警防・特殊災害科（NBC 災害）

1月29日（水）、宮崎市北消防署 緒方 俊一司令補に来ていただき、NBC 災害の概要と活動の流れについて講義していただきました。NBC 災害対応は目に見えない物質との戦いでもあり、十分な準備と訓練が必要であることや、災害対応のシミュレーションを交えわかりやすい講義をしていただきました。



警防・特殊災害科（特別研修）

1月30日（木）、京都大学防災研究所 山下 裕亮准教授に来ていただき（「地震の発生メカニズム」知っておきたい地震のイロハ）と題して、地震とは何か？津波とは何か？地震情報の受け取り方や地震発生後の対応で気をつけることなどを講義していただきました。

本県では2024年8月8日にM7.1、2025年1月13日にはM6.6の地震があり、今後の地震の動向には十分注意する必要がありますが、「割れ残りがありかどうかにかかわらず、いずれ再びM7級の地震は必ず起こるので、日頃から地震への備えを無理なく継続することに尽きる」と話されました。



警防・特殊災害科（鉄道関連災害）

1月29日（水）、JR九州宮崎支社 小森 喬課長に来ていただき、鉄道関連の災害について講義していただきました。

JR九州における運転安全規範の話のあと、鉄道に関連する過去の重大災害を教訓にした現在取り組み、また、緊急時の対応について講義していただきました。鉄道災害は、軌道内という一般道路とは異なる環境であることから、列車構造と鉄道法など理解し対応することを再認識しました。



警防・特殊災害科（気象と災害）

1月30日（木）、宮崎地方气象台から講師に来ていただき、土砂災害の発生状況、災害発生の誘因、素因及び水害や指定河川洪水予報などについて講義をしていただきました。



令和7年2月の主な行事

●自衛消防隊員研修

2月19日（水）～2月21日（金）